

PF 懇談会だより

2010 年度 PF 懇談会 第 2 回運営委員会議事メモ

日時：2010 年 11 月 16 (火) 13 時 00 分～15 時 00 分

場所：KEK 4 号館輪講室 1

出席者：船守展正，千田俊哉，雨宮慶幸，百生敦，中山敦子，栗栖源嗣，尾嶋正治，林好一，朝倉清高，渡邊信久，沼子千弥，吉岡聡，腰原伸也，近藤寛，若槻壮市，五十嵐教之，村上洋一，野村昌治，小林幸則，伊藤健二，飯田厚夫，本田融，河田洋，青戸智浩，兵藤一行，中尾裕則，雨宮健太 (27 名) 森史子 (事務局)

1. 報告事項

1. PF 施設報告 (若槻施設長)

戦略会議の位置づけの明確化

PF の戦略 (BL の最適化，新たな利用の開拓，成果の登録，プレス発表，Super KEK-B との関連)

ERL 計画の進捗状況 (cERL の現状，ERL 実機実現へ向けた戦略)

サマーチャレンジの実施

2. 幹事報告

会長より会議の流れの説明の後，協議事項の議題以外について報告。

行事：PF シンポジウム (3/14,15 エポカルつくば)，3/13 に UG ミーティング

広報：会員拡大へ向けて，ポスター更新，講習ビデオでの宣伝

2. 協議事項

1. 新規 UG の提案 (動的構造 UG)：承認

2. 教育用 BT (EBT)，教育用 BL (EBL)

WG の答申の説明 (利用幹事)

すぐに実行可能なものとして，学位取得用課題，マイスター育成プログラムの提案

今後の検討課題としてコミュニティー運営 EBT，大学 (コンソーシアム) 運営 BL の教育利用を提言

(Q) 総研大の役割は？

大学との間での単位の相互互換などのメリットが考えられるが，テクニカルな検討は必要。

(Q) 10% の枠は，BL によって状況が異なるので，数字を出さない方がいいのでは？

通常は PF 全体でならして，という解釈になる。

(C) 学位取得用課題だけで学位をとるのは難しいので，教員の課題も利用する必要があるだろう。

⇒ PF 施設長あての意見書案を総会にかけることを承認。

3. PF シンポジウムにおける学生賞の新設 (利用幹事)

PF 懇談会に入会している博士課程以下のすべての学生を対象。選考委員による採点で決定。

(Q) どのくらいの人数を想定しているか。

参加者として 30 人程度，そのうちの 1/10 で 3 人程度の受賞を目標としている。

⇒ 承認

4. PF 懇談会の無料化および会則の改定

ISAC の勧告 (無料化することでユーザー全員を会員とし，組織率を 100% にすべき)を受けて幹事会で検討。

(1) 完全に無料化し，全ユーザーを会員にする。具体的な問題点は順次解決していく。

(2) 完全無料化の試行をしてみて，問題点を洗い出す。

(3) 無料会員と有料会員の 2 つを設け，有料会員には特典を与えるようにする。

(4) PF 懇談会の現状を維持する。ただし，PF 懇談会の会則を変更し，PF 懇談会が PF ユーザーの正式な代表であり，意見の集約をすることを会の目的の一つに掲げる。また，PF 懇談会の宣伝活動を強化する。

幹事会としては (4) を提案。

(C) 100% にすることが大事。20% が 30% になって「代表だ」と言ってもあまり力にならない。

(C) 全ユーザーが会員というのは，国際的には標準。外に働きかけるときに力になる。

(C) 会員が増えれば会費は減額できるのでは。

(C) 有料だからといって帰属意識が高まるわけではない。

(C) PF を使うことの権利と義務と考える。ユーザーとしての自覚をもてるしくみが欲しい。

(C) ユーザーの不満が少なく，懇談会の意義が薄れている。

(C) 会則の変更によって若い人が入りにくくならないか。

(C) ユーザー登録の際に入会とし，PF ニュースの配布についても確認するのがよい。

⇒基本的に 100% を目指すことが必要という認識。

幹事会で再度検討して総会に諮る。

5. ERL 研究会

ERL の汎用性に焦点を絞った研究会「PF から ERL へ～私の実験はどうなる」を提案

UG・MUG 代表に対して，ERL に関する質問内容のアンケートを実施

併せて講演者の推薦を依頼

6. PF ニュースの配布先について

現在は学生会員 (会費無料) にも自動的に配布。卒業しても退会の連絡がない限り送付が続く。

変更を提案 (学生会員には原則配布せず，希望者のみ会費を払うことで受け取ることができる)

卒業時に意志を確認する

⇒ 4 月から実施ということで承認。会費の部分は無料化の結論に合わせて対応。

2010年度PF懇談会 「PF ユーザーの集い」議事メモ

日時：2011年1月7日(金) 14時00分～15時00分

場所：つくば国際会議場 大会議室 101

1. 会長から

議題についての説明(特に無料化、将来計画など)。

2. PFの現状報告(若槻施設長)

情報発信(エキスポセンター常設展示、最近の受賞、プレスリリース)。

Super KEK-B計画にともなうPF-AR入射路の増強(4 GeV化)。

2011年度予算、運転計画、PAL協力(各期50課題前後の申請あり)。

ERL計画(cERLの現状、XFEL-Oの検討、LCのR&Dとの連携、機構全体のロードマップ)。

サマーチャレンジのお礼と告知。

3. 幹事報告(議題に含まれるもの以外)

広報：会員拡大へ向けて、ポスター更新、講習ビデオでの宣伝を予定。

4. 新規UGの発足

動的構造UG(代表：腰原伸也)が発足。

5. PFシンポジウムの開催および奨励賞の新設

開催の告知。

奨励賞(学生会員対象)の説明。

6. 教育用ビームタイム(EBT)、教育用ビームライン(EBL)

WGの設置と答申の説明。

学位取得用課題(最長3年有効)、マイスター育成プログラムの提案。

コミュニティー運営EBT、大学(コンソーシアム)運営BLの教育利用、総研大との単位互換を検討。

(Q)マイスターは学位のように何か認定してもらえるのか？

→称号を授与することを考えている。

(Q)学生は前向きなのか？

→具体的には聞いていないが、現在も特別共同利用研究員としてやっている人はいる。

(C)学生にとっては金銭的なサポート(謝金)も重要。

(C)認定の基準について議論が必要。

(Q)特に混雑しているビームラインでは通常の課題との兼ね合いをどうするのか。

→10%程度という上限を設けることを考えている。

→学位取得用課題をどのくらいのレベルで採択するのか検討する。

(C)基金を作るとよい(寄付など)。

(Q)他の施設を利用して経験を積むという可能性はないか。

→個別の交渉が必要だが可能性はある。

7. PF懇談会の無料化に関する意見交換

ISACの勧告(無料化することで全員を会員とし、組織率を100%にすべき)を受けて検討。

組織率をほぼ100%にすることが重要。一方で無料化による意識の低下が問題。

(1)完全に無料化し、全ユーザーを会員にする。

(2)完全無料化の試行をしてみて、問題点を洗い出す。

(3)無料会員と有料会員の2つを設ける。

PF懇談会のメリットが何か、また特に(3)の場合には有料会員のメリットが何か、が重要。

(C)組織率がほぼ100%になって財政的に余裕ができたなら、それを教育用の基金にしてはどうか。

(C)PFニュースへの投稿、教育用BTへの申請を会員の権利としてはどうか。

(C)メリットという発想ではなく、自動的に全員参加し、予算獲得の面などで施設を支えるのが当然という考えが必要ではないか。

(C)PFニュースを電子化して経費を削減し、会費を無料にしてはどうか。

→やめようと思えば紙媒体はやめられる。現状では出版費用の一部と執筆者への謝金を懇談会が負担している。

(C)施設としては次期光源のプライオリティを獲得するためにコミュニティーのサポートが必須。

(C)組織率100%が大前提ではないか。無料か有料かは二の次。

(C)ユーザーとして意見をまとめていくことが重要。

(C)早急に使いやすい後継機を作ってほしい。

→PFとしてはKEK内での連携などによって、なるべく前倒しにすることを目指している。

8. 企業研究者・研究機関のPF懇談会への参加

民間企業UGの立ち上げを計画。アンケートを実施した。

9. ERL研究会

ERLの一般ユーザーに焦点を絞った研究会「PFからERLへ～私の実験はどうなる」を提案。5,6月に行いたい。

10. その他

(C)PF-ARの入射路増強に伴うシャットダウンに際しては、説明・資料提供と、ユーザーとの協議を是非お願いしたい。

→是非そうしたい。

PF 懇談会総会のお知らせ

PF 懇談会会則第 15 条および細則第 12 条に基づき、PF 懇談会総会を下記の要領で開催いたしますので、会員の皆様のご出席をお願いいたします。

総会の定足数は会員数の 1/10 と定められています。ご都合がつかず欠席される方は、委任状（形式自由）を PF 懇談会事務局 (pf-sec@pfqst.kek.jp) までご提出いただきますようお願いいたします。

日時：2011 年 3 月 15 日（火）14:40～15:40

（PF シンポジウム 2 日目）

場所：つくば国際会議場（エポカルつくば）中ホール 200

議題：活動報告、会計報告、その他

また、総会後に「PF の運営についての意見交換」を行います。現在の PF を取り巻く諸問題について、ユーザーと施設側がざくばらんに意見交換するための時間を確保する予定です。またユーザー側からの議題提案も募集いたします。ユーザーの皆さんにはぜひセッションに参加していただきますようお願いいたします。

ユーザーグループミーティングのお知らせ

PF シンポジウムに前後していくつかのユーザーグループミーティングを開催いたします。開催グループと会場は PF 懇談会 HP の UG ミーティング情報に掲載しましたので、ご確認ください (<http://pfwww2.kek.jp/pf-kondankai/kondan/UG/UGjyouhou.html>)。

PF 懇談会新規入会キャンペーン！ 特典付き！！

今、PF 懇談会にご入会いただくと、入会記念に特製カードフォルダーをプレゼント！

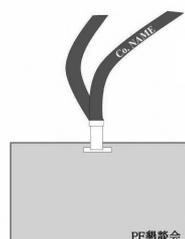
ケースはハードビニール製で企業提供のネックストラップ付です。ID カードをケースから取り出すことなくカードリーダーを通すことができる優れもので、きっと PF の実験の際にお役にたちます。

また、新規入会者には特別に入会手続きの書類と共に郵送でお届けします。

尚、現会員で希望される方は事務局までご連絡下さい。

皆様のご加入をお待ちしています。詳しくは PF 懇談会ホームページ (<http://pfwww2.kek.jp/pf-kondankai/index.html>) をご覧下さい。

PF 懇談会提供カードフォルダー



掲示板

放射光共同利用実験審査委員会速報

実験企画調整担当 宇佐美徳子
兵藤 一行

1 月 25 日、26 日に放射光共同利用実験審査委員会が開かれました。審議の概要を報告します。

1. G 型、P 型の審査結果

昨年 11 月 5 日に締め切られた平成 23 年度前期の G 型、P 型の共同利用実験課題公募に申請された課題、G 型 256 件、P 型 7 件が審査され、G 型 227 件、P 型 9 件（G 型で申請されたが P 型で採択された課題 3 件を含む）、計 236 件の課題が採択されました。不採択課題は 27 件ありました。採択とされた課題の中で条件付きとされたものは 18 件でした。採択課題名および申請課題に対する評価の分布は別表を参考にしてください。今回も Pohang Light Source の Upgrade に伴う停止期間中の韓国ユーザーを受け入れたために申請課題数が増えています（PF ニュース、Vol.27, No.4 における施設長報告参照）。そのために低い評点で採択された課題はビームタイムが配分されずに実質的に店ざらしの状態になることが予想されたので、PAC での議論の結果、採択基準を前回同様 2.8 としました。そのために不採択課題がやや多くなっています。

4 年前から、PF を利用して出版された論文の登録を促進するために、これまでに採択・実施された課題からの報告論文数が少ない課題申請者に対して、調査・問い合わせをして、その結果を課題評価に加味してきましたが、今回からはその調査範囲および評価への反映方法が変わりました（この記事の末尾に新しい基準を再掲してあります）。そのルールによると、この調査に関する問い合わせに何の応答も無い場合には「不採択」となります。この理由によって不採択となった課題が 3 件ありました。返事をいただいた場合でも、下記のルールに従い回答内容を PAC で検討し、減点した結果として採択基準点を下回り、不採択となった課題も 5 件ありました。課題申請される時にこのようなことが起きないように、論文出版時には登録を忘れずに、かつ速やかにお願いします。

今回、条件付き採択課題が 18 件ありました。条件付き課題は申請者からの補足説明に対する PAC 委員長の判断により条件が解除されて実施可能となります。この中には試料名、その安全性に関する記述が十分でないために条件付きとなった課題が多数ありました。試料の安全性や安全確保策が分かるように申請書の V の欄に記述してください。条件付きとなった課題の決定通知書には、条件に関する最初の返答（最終返答でなくても良い）に関する期限を明記してあります。それまでに何の応答も無かった場合に